

特集

甦る「仁」のこころ

- 白河戊辰戦争 150年 -



2018年は、戊辰150年の節目の年です。市では、白河戊辰戦争を再検証し、先人たちの功績を学ぶとともに、戊辰ゆかりの地との交流および白河の歴史・文化の発信を目的とする記念事業を行います。

「甦る「仁」のこころ」のテーマ「フレーズと、陣羽織に慰霊の花である彼岸花をデザインしたロゴマークを活用して、白河戊辰戦争における戦死者を敵味方の分け隔てなく、今も手厚く弔っている「仁」の心を後世に伝えていきます。

記念事業の紹介

実行委員会では、式典・慰霊祭部会、歴史部会、教育部会、文化・観光部会に分かれて、様々な記念事業を展開しています。

ピンバッジ販売

陣羽織と十六ささげ隊、2種類のピンバッジを文化振興課（本庁舎3階）や、マイタウン白河（本町）の売店などで販売しています。

価格/各 350円、セット価格 600円

▼陣羽織柄 ▼十六ささげ隊柄



十六ささげ隊とは

白河戊辰戦争で、新政府軍が恐れた遊撃戦を得意とした部隊です。古来からの鎧姿で、弓や槍を使って勇猛果敢に戦いました。



のぼり旗・フラッグ

市内の戊辰関係史跡・寺院などにのぼり旗が掲げられ、本町や中町の旧奥州街道沿いにはフラッグが掲げられます。



JR新白河駅でのPR看板設置

JR 新白河駅に白河戊辰戦争 PR 看板を設置し、本市を訪れる観光客などに向けて白河戊辰戦争をアピールします。



▼PR看板を設置したイメージ（新幹線改札内）



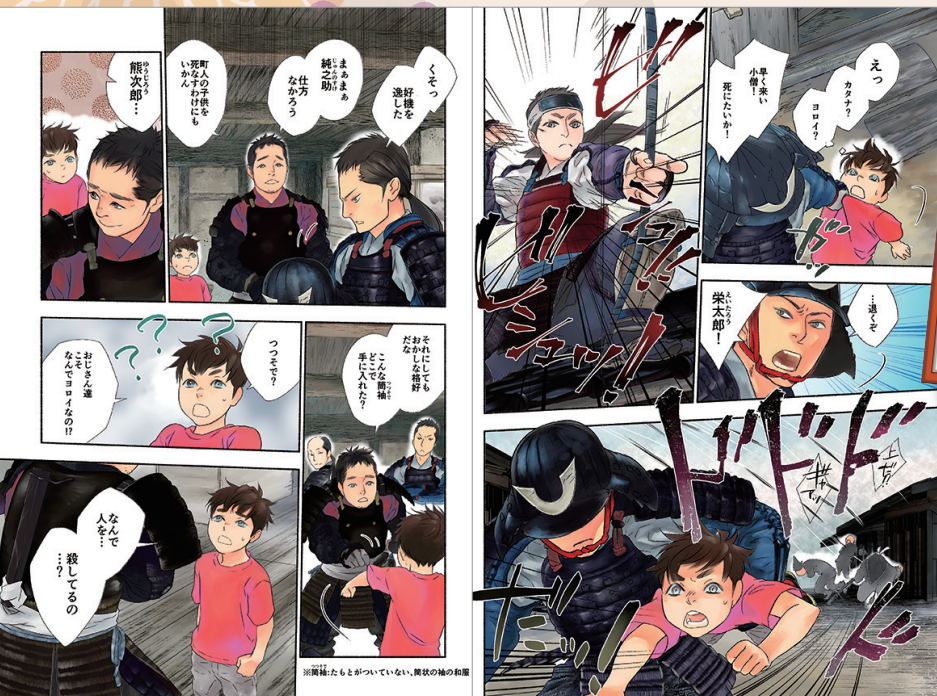
マンガ本作成

次世代を担う子どもたちに白河戊辰戦争を伝えるため、マンガ本を作成しています。3月頃完成予定で、一般販売のほか幕末の歴史を学ぶ小・中学生に無料配布します。



THE STONES

戊辰戦争 白河口の戦い 異聞



作者紹介



端野洋子さん

《プロフィール》
市内在住、講談社アフタヌーン「はじまりのはる」既刊3巻

「今回は、記念事業に参加できて光栄です。戊辰戦争には先祖も関わりがあり、この作品がこの土地で起きたことを広く知っていただく一助になればと思います」

募集

教えてください！ 「我が家の戊辰戦争」

皆様のご自宅などに戊辰戦争に関わる文書、言い伝えや遺物などは眠っていませんか？市では、そのような資料や、当時の逸話などを募集しています。

※衣類、道具、文章、鉄砲、
薬きょう、弾丸など



本庁舎文化振興課
内 2387

予告

合同慰霊祭・講演会など

平成30年度は、メインイベントとなる合同慰霊祭、講演会など様々な記念事業を予定しています。

広報しらかわ4月号から、白河戊辰戦争のコーナー新連載！
今後のイベント情報などに注目だワン！



白河戊辰戦争 おさらい

約1000日間に及んだ白河
戊辰戦争の戦死者は、両軍合
わせて千名以上と伝えられて
います。一体、どのような戦
いだったのでしょうか。

戊辰戦争のはじまり

慶応4年（1868）1月、
京都の鳥羽・伏見で旧幕府軍と
薩長軍が衝突し、戊辰戦争が始
まりました。4月には江戸が無
血開城されましたが、新政府軍
は会津征討を目的に東北へ進出
してきます。

空き城だった小峰城（白河城）

白河藩主であり幕府老中だっ
た阿部正外は、神戸開港問題に
より、蟄居謹慎の処分を受けて
いました。その後、子の正静が
家督を継ぐも、白河から棚倉藩
へ転封させられており、小峰城
は藩主不在という特殊な状況下
で戊辰戦争を迎えます。

小峰城の戦い①閏4月20日

新政府軍の命令で、二本松藩
など東北諸藩が守備していた小
峰城を会津藩が攻撃しました。
会津藩に同情的であった東北諸

藩の守備兵は、城の一部を焼
いて撤退しました。

小峰城の戦い②閏4月25日

会津征討を強要する長州藩
の世良修蔵を仙台藩士らが
斬ったことをきっかけに、東
北諸藩は新政府軍に徹底抗戦
することになります。新政府
軍は、宇都宮方面から進軍し
ましたが、会津率いる同盟軍
が勝利しました。

小峰城の戦い③5月1日

初戦に敗れた新政府軍は、
白坂から三方面へ進軍し、稲
荷山を中心に最大の戦いがあ
りました。同盟軍の兵数は新
政府軍より勝っていました
巧みな作戦や用兵、強力な銃
砲などにより、たった1日で
多くの同盟軍兵士が戦死し、
小峰城も新政府軍に占拠され
ました。

その後：

7月末までのおよそ3か月
間、同盟軍は小峰城の奪還を
試みますが、連携不足や、指
揮官不在などの理由で失敗に
終わりました。棚倉城も落城
し、9月22日には会津藩が降
伏しました。



▲5月1日の戦い（新政府軍の進軍図）
新政府軍は、中央隊が稲荷山を中心に攻撃すると見せかけ
て同盟軍を一か所に集中させ、手薄になったところを右翼
隊・左翼隊が突破し、小峰城を占拠しました。



▲平成27年に建てられた稲荷山の慰
霊碑には、約千人の戦殉難者の名
前が刻まれています。

市内には、戦死者を敵味
方の分け隔てなく手厚く弔
う多くの慰霊碑・墓があり
ます。（写真はその一部）



▲長州大垣藩戦死
六名墓

激戦地だった松並には同盟軍、
新政府軍の慰霊碑が向かい合
って建てられています。



▲会津藩士を慰霊する
銷魂碑(左)と戦死墓(右)



◀稲荷山からは、新政府軍が
陣取っていた小丸山を一望
でき、新政府軍の迫りくる
砲弾や陣形を想像すること
ができます。



▶南湖の棚倉藩慰霊碑



白河市・萩市交流の軌跡



白河踊りが山口県内の各地で踊られていることを知っていますか？白河の地で激戦を繰り広げた長州藩に、なぜ白河踊りが伝わったのでしょうか。

白河踊りの伝来

戊辰戦争時、白河の領民が戦死者を弔い、盆踊りで死者の霊を慰めていたところに、長州から参戦した諸隊兵士も盆踊りの輪に入って、戦友の霊を慰めたと伝えられています。戦いの後、ふるさと萩に戻った諸隊兵士にとって、白河踊りを踊ることが戦友への慰霊であったことから、そのような思いが各地に広まったのではないかと考えられています。



▲12月1日、鈴木市長が藤道健二萩市長を表敬訪問し、7月に開催される合同慰霊祭への参加や次世代の交流などを提案しました。



平成26年実施
萩市民号の様子

長寿院（本町北裏）の戦死墓などを巡り、盆踊り大会で両市民が交流を深めました。



萩市との交流

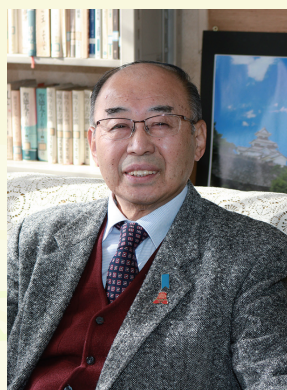
白河市と萩市は、白河踊りを通して、これまで様々な交流を重ねてきました。戊辰戦争140年を迎えた平成20年には、市長と市民団体の方々が萩市に招かれ、一緒に白河踊りを踊りました。

また、平成26年には、萩市長をはじめ40名の萩市民が白河市を訪れて、市内の慰霊碑などを巡り、しらかわ盆踊り大会にも参加しました。

子ども心のふるさと交流事業

今回の記念事業では、次世代を担う両市の小・中学生たちが、歴史を学び、見つめ直すための交流事業を予定しています。

「仁」の心を受け継ぎ、伝えていく



白河戊辰150周年記念事業
実行委員会会長

人見 光太郎さん

関所がある白河の地は、戊辰戦争においても最重要視されており、通過点ではなく、一つの大きな関門でした。両軍の慰霊碑などが数多く残っているのは、白河には寺院がたくさんあり、その信仰心が根付いていたからではないでしょうか。

昭和12年、戊辰70年記念式典が行われているように、白河の人々はその慰霊の心を継承してきました。東軍・西軍と区別せずに慰霊ができるのも白河の地だからこそです。萩市とは、白河踊りが伝承されているほかにも様々な縁があり、萩市の画家・松林

桂月は、旧白河藩家老一族の出である松林孝子と結婚しました。

先祖からの「仁」の心を受け継ぎ、未来へ伝えていくことが、私たちの使命であり、記念事業をきっかけに白河を全国にもPRしたいと考えています。



▲南湖「共楽亭」で行われた戊辰70年記念式典